

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市東部地域療育センター 児童発達支援事業所「わかば」		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日	～	令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年11月27日	～	令和7年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の特性に合わせた療育支援を大切に、お子さんが理解しやすい環境づくりに取り組んでいます。 保護者向け勉強会を充実させ家族への情報提供に取り組んでいます。	丁寧にアセスメントを行い個々に応じた支援方法で取り組んでいます。 生活面から進路や地域資源まで広範囲にわたるテーマで情報を提供しています。	引き続きお子さんの発達や特性に応じた支援が提供できるよう、職員の育成を行います。 勉強会の内容は利用者のニーズに応じて毎年検討していきます。
2	療育時間外に個別相談の時間帯を設けており、随時希望があれば30分～1時間程度の個別での面談を行っています。 懇談会以外にも、フリートークという時間を設けクラスごとのテーマで保護者同士の情報交換、交流を行っています。	相談したいことがあればできるだけ待たせず、迅速に対応できるようにしています。 保護者からの話や保護者同士の話ができる場を定期的持つようにしています。 保護者からの発信を受け止める体制作りを力を入れています。	通所が週1回であるため、相談が込み合うと待たせてしまうこともあるため、設定日以外の相談も検討しています。
3	福祉相談室とともに園訪問を通じた地域支援を行い、関係機関と連携しながら、地域全体でお子さんの支援に取り組んでいます。	療育センターの福祉相談室と内部連携に力を入れており、情報の共有を行いながら地域支援に取り組んでいます。 保護者には事前の意向確認と訪問後のフィードバックを行うなどして、園と職員、保護者の3者での情報共有を行っています。	園訪問が年1回であるため、今後は訪問の頻度や連携の方法を模索していきます。また、事業所の保育職と園の保育士との現場レベルでの連携や、民間の児童発達支援事業所との連携を図ることも今後の課題となります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自己評価の結果からもきょうだいに関わる取り組みが勉強会しかないところが弱みとなります。	対象となるきょうだいが低年齢のお子さんが多いこともあり、療育中の対応が困難であることが要因の一つです。	学齢以上の年齢を対象に、夏季の期間などを区切ってきょうだい向け見学プログラムや勉強会などを検討したいと思います。
2	療育センターは広域を対象としているため、地域との交流事業は難しい側面もあります。	利用しているお子さんはほぼ対象エリアの保育所、幼稚園に通っており、その地域が基盤となっています。 事業所が開所2年目ということもあり地域とのつながりも少ないことが要因の一つとなっています。	身近な地域としては、公園などの屋外活動をおこなった際に遊びの場を共有をするようにします。 広域には園訪問や事業所との連携を通して、組織的な交流を検討します。
3	事業所としては十分な広さを確保していますが、親子療育であるためややスペースが狭く感じる場面があります。	活動内容や個別対応が生じたときにスペースが足りないと感じる要因です。	廊下や多目的室を使い、コーナーの設定や、加配による保育職の増員なども検討します。